

LPガスCP速報(2023年4月積)

1. 4積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **555** ドル (前月比-165 ドル)
ブタン **545** ドル (前月比-195 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、冬場の需要期が明け、サウジ、UAEのターミナルメンテナンスも終了し産ガス国の供給は潤沢、温暖な気候に恵まれ需給が緩和した。東京でLPG国際セミナーが開催され多数の関係者が参加、マーケットは薄商いとなった。暖房需要が終了し家庭業務用が低迷する中、石化需要も低調、インドネシア、台湾などクラッカー向けブタンの入札も散見されたが、中国のPDH等の本格需要回復はこれから。極東CFR市況は、第1週のプロパン670 ドル 、ブタン685 ドル から第4週末には560~540 ドル まで下げている。

米国市場をみると、輸出が好調、需要も堅調で、全米プロパン在庫は減少が続いている。ただ、在庫水準は超低水準の前年同期比167%、31週連続で前年同期を上回り、5年平均レンジの上位(グラフ②)。モンベルビュープロパンスポット価格は続落。原油市況の軟化と中東市況の下落もあり、高水準在庫を受けて月間平均は前月比16 ドル 下げの415 ドル /トどころ、前年同期比では350 ドル どころの下落(グラフ①参照)、となっている。

フレート市況は、月初の100 ドル 超から軟化。パナマ運河の滞船日数は3月初旬には15日を超えたが、中旬以降落着いてきた。国際セミナーに関係者が参加、市場の動きが閑散とするなか、需要ピークを過ぎ、需給は緩和、好調な輸出が続く米国から中東に戻ってくる見通しで船腹需給も緩んでいる。米国積みと極東・欧州持ち届け価格の格差が縮小傾向で、米国の備船需要も振るわず軟調に推移か。

ナフサ市況は続伸、月間平均は前月比36 ドル 反落の715 ドル どころ。原油市況が軟化、中国はじめ石化需要の回復が本格化するのかどうか注視が必要。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比19 ドル 続伸の437 ドル となった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同36 ドル の続落で764 ドル どころ、低水準在庫は続いているが、ピークを過ぎC重油との格差も325 ドル どころに縮小した。

4月CPは前年同月比プロパン385 ドル 、ブタン415 ドル それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン21ポイント、ブタン26ポイント下落、前年同月比ではプロパン17、ブタン21ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	102	97	94	88	95
CP先物指標：P	650	615	535	560	590
CP先物指標：B	660	620	530	550	590

② 原油市況等

WTIの3月月間平均価格は73 ドル 台に続落する見込みだ。シリコンバレー銀行の破綻、クレディスイス危機を契機に世界的に金融不安が高まり、金融市場が混乱、センチメントが悪化しリスク回避から、原油市場も急落した。WTIは、第3週末に2021年12月3日以来の66 ドル 台まで値を沈めた。最終週には、イラクとクルド人自治区の対立によりトルコからの原油積出(40万b/d)が停止、フランスの年金改革を巡るデモにより燃料生産・物流に支障が出るなど供給面から市況を押し上げる場面もみられた。石油市場を巡るファンダメンタルズは、中国需要回復、OPECプラスの減産と金融引き締めによる景気減速、需要減退が綱引きの状態だが、マクロ経済・金融市場の影響を受けやすくなっている。商品先物市場はリスク回避でポジションが縮小され、流動性が低くボラティリティが高い状況が続いている。ファンダ筋の買越残は2016年以来の低水準、当業者のヘッジ玉も減少が続く、先物市場本来の機能が危ぶまれてきた。

○3月積みアラビアン・ライト(3月1~30日までの想定)は80.60 ドル (前月比-3.36 ドル)

熱量等価AL100% プロパン680.84 ドル /ト ブタン651.77 ドル /ト

AL比 プロパン83.98% ブタン83.62%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

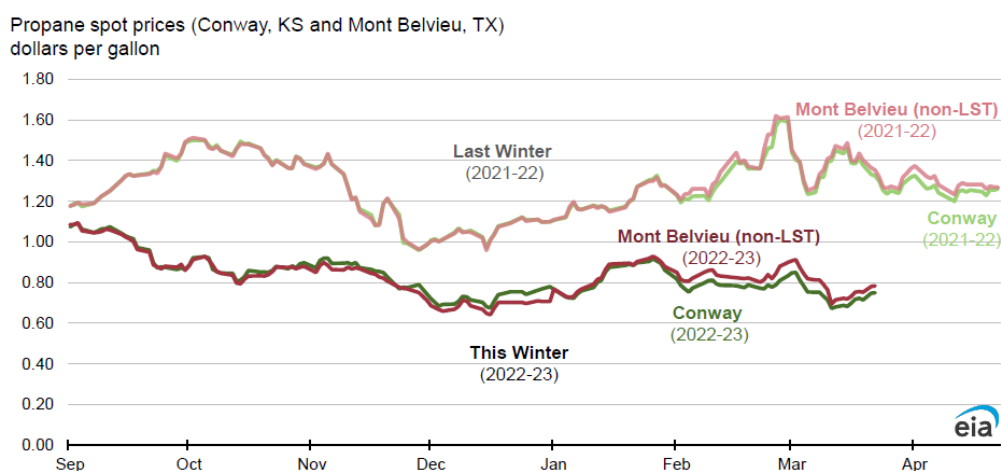
2. 2023年4月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	136.24	92,300	97,100	-9,100	-13,600
②末日締め	134.92	91,500	96,700	-10,900	-15,600

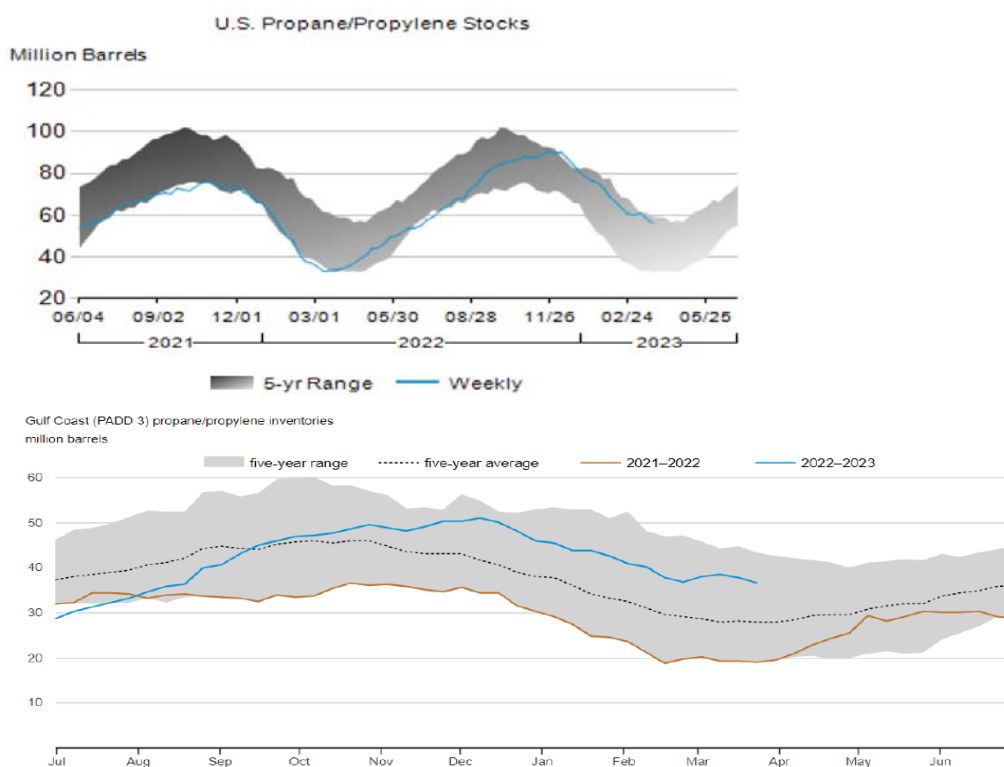
*TTS平均等について、①が2月21日～3月20日、②3月1～31日までで想定。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。プロパンのMB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは3月28日までの価格を基にEINで試算（415ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



②米プロパン在庫推移(全米・メキシコ湾)



Source: U.S. Energy Information Administration, Weekly Petroleum Status Report, March 29, 2023